

【作文中学生の部】

- 特選 東和中学校 3年 阿部 侑佳 「安全な水に感謝して」
- 入選 津山中学校 2年 遠藤 菜渚 「きれいな水を守るため」
- 入選 津山中学校 2年 佐々木 紫乃 「文明の進化で生まれた物その名は水道」
- 入選 津山中学校 2年 三浦百花 「水を守るために」

むだをなくすわたしの大作せん

登米小学校二年 佐々木 美羽

「あっ、水がながれているよ。」

私が、はじめて、水にきょうみをもったの

は、四才の時でした。

雨がふった後のそのころに、水がながれて

いたので、二才の妹と三人で、水のおいかけ

っこをしました。

その時、そこにながれていた水が、川

へながれて行って、そこから水がくみ上げ

られ、水道山にあるじょう水場できれいにする

ることをお母さんに教えてもらいました。

へこんだにきたない水が、のめるようになる

なんて！ほんとうか？

とおどろき、水についてしらべてみることに

しました。

水をきれいにするには、くすりを入れ、ろ

かをくりかえし、くりかえしすることをはじめ

めてしりました。私は、水をきれいにするの

は、大へんなことだと思っただので、

(ようし。水をむだにしないようにしよう)ときめ、作せんを立てることにしました。

私がきめた一つ目の大作せんは、ながよしトイレ大作せんです。トイレに行きたくなったら、妹やお母さんに声をかけ、いっしょにトイレに行くようにしています。そうすると、三回水をながさずに、一回ですむので、トイレの水をむだにしないでつかうことができま

す。
お母さんには、

「ちよ、とはずかしいから、みんなに言、ちよ、いけないう。」
と言われているので、これは、ひみつの作せんです。

二つ目は、はや洗い大作せんです。手を洗う時、私も、妹も、あわが大好きで、何回も何回も手にあわをつけ、水を出し、ばなしにして手を洗うことがありました。
でも、水を使うところに、お金がかかることもあったので、

(のんびりのんびりあらうてち、水がむた

だよ。お金もかかるよ。

とかんがえました。

そこで、手をあらう時は、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十。

と、数字を数えながら、スピードアップして

手をこすり、水を長い時間出さないように気

をつけています。これをやると、スピードア

ップするるので、顔に水がかり、ちよつとつ

かれて大へんです。でも、水をむだにしない

ために、妹と二人でがんばっています。

水を大切につかうことは、ひみつもあるし

つかれるし、ほんとうにぼんとうに大へん

です。

でも、私は、水をきれいにしてくれている

たぐさんの人や、毎日、私の家に水がどく

ことに、

(ありがとう)

の気もちをもち、これからも、私の大作せん

をつづけていこうと思っっています。

水と生きる

米山東小学校 六年 古閑 楓

私たちが生きていくうえで、水はとりても
大切であ。料理に使、こり、お風呂や便器を
洗う時ほど、様々な場面で水は使われま。あ。
川や海などに生息ある生き物全ても、水を必
要としま。田や畑も水がほいと作物は育、
ていきま。世界中のありとあらゆるもの
の生活に、水は変えてくれています。水の持

性も、私にとって格好いと思いま。又、
エーゲンの科学者、リッセルに遊ぶほど、
うれいと思いま。みんなの命を守る、そん
な事はうれい水に、私はいっぺん賞をあげた
いであ。

水が流しもこの世界からなくなくなっ
にう、生き物全てが生きていけなくなら
よう。当たり前のように毎日使、ている水。
当たり前のように身の回りにあるからこそ、
大切にしなければなりません。少しの量でも

ほんのわずかの量でも、感謝をして飲んだり
 使ったりしなれば、いげたいと思います。
 水はたくさんの方の工程をたどり、世界中で必
 ずとされているたくさんの方へと供給されてま
 ず。私たちがお水を使えるよ
 うに、各家庭へ運ばれてくるまでに多くの
 の手により、川の水が浄化されていきてま
 す。正確に「安全」。この言葉が水をきれいにする
 るために大切な言葉だと聞きました。バ
 ン無
 人が、川などにはお水を捨てたり、川を汚した
 りあると、人々の生活に大きな影響を与え
 ることになる。川の水をきれいにするため
 には、多くの時間とお金がかかります。簡単
 なことでは無いことを、みんなに知ってほし
 いです。
 川をきれいにしたい、この呼びかけ以
 外には、私なりに水を大切にしたいように
 水を大切にしたい。お風呂の残り
 湯の再利用や、洗濯物の量や食器などの洗
 物の量を減らすことなどがあります。もちろ
 ん、私

一人だけの力では無理なので、家族みんなが力を
あわせていこうと思ひます。節水を心がけ
ていきたいと思います。

また、水は、豊かた森林が保つて作られて
せん。豊かた自然を守るために、丸や針に
木を切らばいいこと、空気を汚さばいいこと、
とも気を付けていかば保つて来せん。人
も動物も、気持ちよく暮らせる自然環境を、
私たちがつくっていかば保つて来せん。

今、地球温暖化といふ大きな問題があります。

この温暖化が、年々進んでいると聞きます。
温暖化が進むと水にも影響が及ぶと、私達は
気づきます。

今、私たちにできることには限りがあります。
でも、どれも必要な水を、つくつたためには、
一人一人の努力が必要です。生きていくうえで
必要なた水を大切にすること、そして、きれいな
水を作るのに、いっしょにがんばつてくれている
人たちに感謝しながら水を使つていこうと思
ひます。ありがとうございました。

安全な水に感謝して

東和中学校 三年 阿部 脩佳

何気ない普通の学校生活。しかし、私にはひとときの喉を潤した水が、格別に心と身体に染み、「なんておいしい。きれいな水だ！」と、しみじみ思う瞬間があります。

私は吹奏楽部に所属し、フルートを担当しています。コンクールに向けて一生懸命に練習に励んだ後や緊張した演奏会当日、中絶体の熱戦を応援し、体育の授業で汗をたくさん

NO.2

NO.1

かいた後は、水こそ私の「元気の基」という感じですが。晴天の青空を仰ぎ見て、水を好きになだけゴクゴクと飲める幸せ。これは、日本のライフラインがしっかりと整備され、水道局の皆さんが、優れた技術と常に国民が安心して水を飲めるように、高い志を持って努力してくださっているおかげです。

私か、日本の水道水の素晴らしさを痛切に感じるのは、母の故郷である中国の生活環境を知っているからです。広大な中国大陸の中

でも北部の山間部にある母の実家は、水道の蛇口があつても、そこから出る水をそのまま飲むことはできません。洗濯等に使用するのです。水の透明度は日本のようにきれいとは言えず、白い衣類は漂白剤が必要な時もあります。マニラヨンの最上階だつた住居では他の人が利用する状況が多く重なると、水が巡つて来ず、水道の蛇口を開けても数滴の水しか落ちず、悲しいかな雪で終わってしまい、しばらく出てこない事態が度々ありました。

中国には何度も訪れていますが、喉が渴いて飲む水や料理に使う水は専用の容器やボトルに入れて売られている水をわざわざ購入しなければなりません。飲める水は必要最小限に工夫して利用しているのです。身体に取り入れても大丈夫な水をあたりまえに思う存分に使っていた日本の生活がいかに恵まれていたかと実感しました。あまりにも大きな相違点でした。お風呂は、日本で言えば銭湯のような浴場で、バスタブにビニールのよ

うなもの敷いて、太陽光で温めた水を入れます。私は、次に使う人を使い、多くは保存されていらい限られた水を、無駄にせず遠慮しなから身体を洗いました。洗顔もタオルを少し濡らし、拭き取って過ごしました。

東日本大震災の時、私は小学校二年生でした。日本の我が家には井戸があったので生活で使う水の調達は何とか大丈夫でした。でも給水所にもらいに行かなければと困っていた近所の方々もたくさんいたので、井戸水を分

けて使ってもらい、ゴミをしのぎました。被災地や避難場所では、水を要求する声も絶えませんが、未曽有の切実な震災は、人が生き抜く上で必要なものは何かをはっきり教えてくれました。水こそ健康を維持する上で大切な宝です。健康茶やスリッパ、ジョギングやスポーツドリンクも、生活の基盤となり、万能に活用できる水には及ばないのです。しかし、私は震災等を通してその水も無限ではないことを改めて学びました。日本は海

に囲まれ、私の家の近くには北上川も流れて
います。水源が豊富な所に生活しています。
しかし、一度天災などの影響で断水してしま
うと、給水所や給水車に頼らざるを得ません。
残念ながら私たちが自らの手で海水や川の水
を、短時間で簡単に安全な飲料水へと作り変
えることはできないのです。小学生の時に、
市内の浄水場を見学したことがありました。
浄水して安全な飲料水を生み出す過程は、と
ても複雑で専門の水道局の皆さんの手によ

てセッくり時間を掛けて浄水され、供給して
いる水でした。それだけに水の貴重さを心に
刻み、大切に使う心掛けが求められています。
地球環境が変化し続けている現在、思いも
よらぬ自然災害も想定しておくべきです。防
火の意識を高め、ライフラインが閉ざされ、
緊急の対応が求められる時も、みんなが必要
不可欠な水を利用していきけるように協力し合
い、乗り越えていきたいと思います。万が一いざと
いう時のためにも日頃から節水。日本中の一

一人が安心して水道水を使える喜びに感謝し、大切に再利用する工夫をすれば有限の水を途絶えさせずに維持できます。例えば、洗剤を少なくしたり、米のとぎ汁を植物に掛けたり昔ながらの知恵も学んで小さな実践を積み上げたたいです。無駄な使用をせず、水量の貯えの減少を防ぎ、一滴の貴さを知って水道事業に携わる方々に協力したいです。日本全国各地の水道局の皆さんの努力と支援があってこそ衛生的な水を利用できているのです。

昨年、ユニセフの活動について学習会をしました。地球上では安全な飲料水を確保できず、汚れた水が原因で病気となり、尊い命を失う過酷な現状があります。悲惨な映像や資料に心が痛みました。命を守り、暮らしを豊かに潤す水の存在は本当にかげがえのないものです。私は、これから世界に秀でた日本の水道事業の皆さんの見事な活躍に心から感謝しつつ水を利用します。そして、利用者がある私たちの使命も伝え広めていきたいです。

きれいな水を守るために

遠藤 菜渚

私たちは、毎日あたりまえのようにして水を飲んだりしています。水といわれるとたいたいは「水道」をイメージすると思いますが。水道の蛇口をひねると、透明なきれいな水がでてきます。蛇口があるのは日本だけではないと思います。でも、ある国の水道の蛇口からでてきた水は、茶色くてにごっていて驚いた。昔行ったときの話が父が言っていました。

仙台法務局

それは、その国だけだ。たおけではないと思いません。

蛇口どころか水も不足しても生活には厳しい地域も一つ二つではないと思えます。

テレビや学校の授業で聞いたことなので、多くはないと思います。私たちがしている

「あたりまえ」の生活ができていなく、雨水をためて飲んだり、蛇口がないため屋根を工

夫し、雨水をためれるようにしてためているというのをきいて大変だなと思いました。

なぜ日本の水は蛇口をひねればすぐにたくさんのお水がでてくるのか気になりました。きれいな水の元は川です。川がきたないといやな気持ちになるし、もったいなくしてしまします。逆にきれいな川だと、もったいなくしてしまします。逆にならぬ川だと、もったいなくしてしまします。自然と魚や虫などの生き物も増え自然豊かになります。それだけではない、環境にもよく、もしかしたら地球温暖化の悪化も防ぐことができるかもしれません。

仙台法務局

川をきれいにすればこのような良いことがたくさんあるのにどうして川にゴミを捨てられてしまうのでしょうか。昔はよく、川で洗たくをしていたそう、それが原因で人々は大変になりました。たと小学生の社会で習いましたが、今でも川に洗ざいがおいてあるのをみつけました。ゴミかなと思いい、持ちあげてみるとまた重く、たくさんのお水が入っていました。そうになると、その洗ざいの持ち主は毎日その川で洗っているとも考えられます。

川の様子をみると、もが発生し何年前まで
いたメダカやいわなどが一匹きもいません
でした。もう生き物はすめません。
私は少しがっかりしました。自分の住んで
るところの川はきれいとは話題なのに、少しよ
ごれていて生き物もいなくて悲しかつたです。
きたない川の水でも最後には人間にきます。
もし、きたない川にいた魚を人はつかまえて
食べます。それでは昔と同じ大変なことにな
ります。さらには、水をきれいにした後だけ

仙台法務局

れど水を飲みます。水をきれいにする人がと
ても大変です。
蛇口の水は「きれいな」があたり前ですが、
川もきれいなあたり前にしたいです。
私は、私だけでも少しずつ川にいつてゴミ
を捨てたり、川の水のよごれているところを
とって、前みたいなメダカやいわなどかた
くさん泳いでいる川を取りもどしたいです。
そして、水不足で大変な国の人のために、
もうと水をきれいにし募金もしたいです。

文明の進化で生まれた物その名は水道
二年 佐々木 紫乃
じゃ口をひねるだけで水が出てくる魔法の
道具。それが水道だ。いどで水をくみ上げて
いた頃とくらべると素晴らしい発明だと思え
る。
生まれたころからずっとあり、とくに気に
せず生きてきたが、今考えると昔生きてい
た人がつくったからここにがあるのだと実感さ
せられる。

もし、この時代に水道がなければ？私は考
えてみた。

朝起きてから顔を洗ったり、歯みがきを
したりする。いどから水をくむために外へ行
く。クローラーにたより、肉体的に変化につい
ていけない現代人。夏はずすしいと感じる。
しかし、冬は辛いのだ。もちろん冷たい水で
温かくもできないので指が切れるようです。
それにくらべ水道は家の中までつながってお
り、なおかつ温かくも冷たくもできる。なん

てすてきなんでしょう。わざわざ外へ行かなくとも良いのだ。

大変なことは他にもあるのだ。せんたくやお風呂など、数えたら限りない。私はその中で「皿洗い」について述べようと思う。

皿洗いでは水は必要だ。うるかす・洗うという二つの段階を私の家ではしている。もちろん洗剤という便利なものが今はある。いどへ行って水をくみあげ、皿をその水につける。その間、またいどへ行く。台所に立つとスポンジに洗剤をつけて洗う。あわだらけになつた皿を水の中に入れて軽く洗い流す。そしてもう一度いどへ行き水をくみとり、次はしつかりと洗い流す。しかし、油よごれや米つぶはしつかり洗えない。母が、「温かいお湯だ」とれる。

と言っていたのを思い出した。それなら一度わかさねばなるまい。めんどうくさいがやらなければきれいにならない。

しかし、水道ならどうだろう。めんどうく

さいことが省かれています。じゃ口をひねると
水が出てくる。とても楽なことだ。
いどが使いづらいわけではない。実際、昔
はいどを使っていたはずだ。しかし、それ以
上に水道が使いやすかったのだ。文明は日に
日に進化している。これも、その表れなの
だろう。
じゃ口をひねると水が出てくる魔法の道具
水道。それは今の私たちには必要なものなの
である。

水を守るために

三浦 百花

水の大切さを身に染みて知った。忘れられ

ない東日本大震災。あたり前の生活があたり

前ではなくなってしまった。あの日。私の町は、

水が止まる事はなく、使用する事ができまし

たが、すぐとなりのは、信じられない状

況でした。ラジオを頼りに情報を得ていまし

た。水で困っている人に届けたくても、今度

はガソリンがありません。父も母も身動きが

とれませんでした。

もう、あんな経験はしたくない。でも、い

つ自然災害がおきるかわかりませんが、家族で、

もしもの時のそなえについて話しをしました。

水が止まってしまったら、飲むことはもち

ろん、食器を洗うことも、お風呂に入ること

も、洗濯も料理も何もできません。その毎日

の生活にかかせない水は、どのようにして我

が家に届いているのだらう。

自然に恵まれている私達の町、山があり北

上川があり、その北上川から、私達の家庭へ
おいしい水、大切な水が届きます。この貴重
な水を守るためには、私達の生活の中で一人
ひとり、気がつけなければならぬ事を知
りました。
水を汚さないように、洗剤の量、食器をす
すぐ回数減らす、洗濯の水の量、回数を減
らす、油ものを洗う時は、紙でふいてから、
洗う。本当にちよつとした心がけを、各家庭
で気をつけていけば、自然を守ることができ、
川を守ることもでき、水を守ることができ
と知りました。そんな小さな心がけで、私達
は、おいしい水道水を飲むことができます。
六年前の、あの辛い東日本大震災を経験し、
たくさんのことを学びました。各家庭に水が
届くということ、は、決してあたり前ではなく
すごいことだと思えます。家に水が届くまで
の水道関係の方々の苦勞に感謝しています。
水を守るといふ自然を守るといふことは、
私達の生活を守るといふことにつながると思

います。

自分自身も、どんなに小さな事でも、自然を守るため、水を守るために日々、心がけて生活して行きたいと思えます。

水を守るために

三浦 百花

水の大切さを身に染みて知った、忘れられ

ない東日本大震災。あたり前の生活があたり

前ではなくなっってしまったあの日。私の町は、

水が止まる事はなく、使用する事ができまし

たが、すぐとなり町では、信じられない状

況で、ラジオを頼りに情報を得ていまし

た。水で困っている人に届けたくても、今度

はガソリンがありません。父も母も身動きが

とれませんでした。

もう、あんな経験はしたくない。でも、い

つ自然災害がおきるかわかりませんが、家族で、

もしもの時のそなえについて話しをしました。

水が止まっでしまったら、飲むことはもち

ろん、食器を洗うことも、お風呂に入ること

も、洗濯も料理も何もできません。その毎日

の生活にかかせない水は、どのようにして我

が家に届いているのだらう。

自然に恵まれている私達の町、山があり北

上川があり、その北上川から、私達の家庭へ、
おいしい水、大切な水が届きます。この貴重
な水を守るためには、私達の生活の中で一人
ひとり、気がつけなければならぬ事を知
りました。
水を汚さないように、洗剤の量、食器をす
すぐ回数減らす、洗濯の水の量、回数を減
らす、油ものを洗う時は、紙でふいてから、
洗う。本当にちよつとした心がけを、各家庭
で気をつけていけば、自然を守ることができ、
川を守ることもでき、水を守ることができ、
と知りました。そんな小さな心がけで、私達
は、おいしい水道水を飲むことができます。
六年前の、あの辛い東日本大震災を経験し、
たくさんのことを学びました。各家庭に水が
届くという事は、決してあたり前ではなく、
すごいことだと思います。家に水が届くまで
の水道関係の方々の苦勞に感謝しています。
水を守るといふ自然を守るといふことは、
私達の生活を守るといふことにつながると思

います。

自分自身も、どんなに小さな事でも、自然
を守るため、水を守るために日々、心がけて
生活して行きたいと思えます。